

令和5年度

県教育委員会における「働きやすい職場づくり」に向けた取組の実施結果

「働きやすい職場づくり」に向けた取組

○ご遺族との和解を踏まえ、毎年5月中に、全ての県立学校において「働きやすい職場づくり」に向けた取組を実施

(目的)「郡上特別支援学校講師自死事案に係る調査報告書」の再発防止に向けての提言の確認、職場環境の改善

1 県立学校における職場研修及び意見交換等の実施

(1) 職場研修等

○「働きやすい職場づくり」に向けた職場研修の実施

- ・報告書の再発防止に向けての提言（文書の適正保管や法令に基づく事務処理の徹底などのコンプライアンス意識の向上、勤務時間の正確な把握に基づく働き方改革プランの確実な実行、職員間のコミュニケーション等）について、職員が遵守し、心がける点を確認
- ・新たに、各教職員のセルフケアと管理職によるラインケアに関する基礎知識向上のための研修を実施 **新規**

○アンガーマネジメント研修の実施

- ・ハラスメントや体罰等の防止のため、怒りのコントロールを通じた適切な対処法等について研修を実施

○メンタルヘルス等の研修の実施

- ・県立学校等の管理職等を対象とした「メンタルヘルスとパワハラ防止について」の講話を、職場研修に先立ち e-learning により受講
- ※講師：臨床心理士

(2) 意見交換

○「働きやすい職場づくり」に向けた意見交換を実施

- ・(1)の研修を踏まえ、年代や教科、教員・事務等の枠を超えて意見交換
- ・意見交換は、教職員の働き方改革プランの基本目標（時間外在校等時間が月45時間以内等）を達成するために取り組みたいことや職場環境を良好にするために取り組みたいこと等をテーマに実施

(具体的な意見については次頁)

【主な意見】

<働き方改革についての意見>

- ・8のつく日や水曜日には、管理職が学校内を見回り、残業している教職員に声をかけ、定時退勤を促している。
- ・生徒の出欠確認やテスト採点のデジタル化により、業務が軽減されている。

<職場環境についての意見>

- ・あいさつや声かけといったことから職員間のコミュニケーションを大切にし、風通しの良い職場づくりに努めている。
- ・分かれていた職員室が一つになったことで、情報共有や協力体制が作りやすくなった。

<取組全体についての意見>

- ・昨年度と同じ表題や話題であっても、最近の事例や現在置かれている自身の状況によって得られる学びが深まるため、この研修を毎年繰り返す意義の一つを感じた。

2 県教育委員会における啓発等

(1) 悩みについての相談先啓発チラシの共有 **新規**

- ・新任教員等が孤立しないように、職場の悩みを相談する先がいくつもあることが分かるチラシを作成し、全ての教職員に共有

(2) ハラスメント等に関する相談窓口等の周知徹底

- ・ハラスメント等を受けた際の県教育委員会内の相談窓口や、弁護士による外部相談窓口について、周知徹底（4月10日、4月18日）

(3) ストレス測定機器を活用したストレス状況の把握

- ・全県立学校等において、疲労ストレス測定機器により客観的に疲労やストレス状況を把握し、メンタルヘルス不調を未然に防止。今年度はタブレットを導入し、測定環境を充実

※4・5月実績：12校73名。6月以降も継続

(4) 疲労蓄積度自己診断チェックの実施

- ・全ての教職員が、管理職との職員面談時に「疲労蓄積度自己診断チェックリスト（厚労省作成）」の自己診断結果を提出し、管理職が教職員の心身の状況を確認

(5) 働き方改革メールマガジンの配信

- ・働き方改革プランの確実な実行のため、正確な時間外在校等時間の記録及び管理の徹底や職員の健康管理等について周知（5月1日配信）

(6) 「健康エッセンス5月号」でのPR

- ・「セルフケア」や「ラインケア」をテーマに取り上げ、ストレスの予防・解消・軽減の仕方、メンタルヘルスの対策を解説。また、健康相談窓口・健康管理事業を紹介（4月25日発行）

3 職場訪問

(1) 学校訪問

- ・事務局職員が、学校を訪問し、教職員の働き方改革プランの取組状況について、学校現場における実態の聞き取りを実施

※5月実績：4校16名。6月以降も継続し、年間30校を予定

【働き方改革の取組による効果（聞き取り結果）】

- ・校務も授業もICT化が進み、効率的になってきているが、使用頻度が上がるにつれ、情報機器の故障や通信障害などトラブルも多く発生しているため、サポートが必要
- ・教員業務アシスタントに、印刷、会計処理などの業務を依頼でき、教員の業務削減につながっている。

【今後の課題】

- ・情報機器や生徒用タブレットの管理業務の負担軽減
- ・教員業務アシスタントや部活動指導員、部活動アシスタントのより効果的な活用法

(2) 職場巡回健康相談

- ・事務局の保健師が学校等を訪問し、心身の健康相談や、学校の安全衛生管理体制等についてヒアリングを実施

※5月実績：2校14名。6月以降も継続し、年間30所属を予定

【健康相談の状況】

- ・生徒対応に時間と労力を要しストレスの原因となっているが、上司に相談し助言を得ながら対応ができています。
- ・所属管理職がストレスや過労を心配している場合でも、実際本人自身はストレスや疲れを感じていないケースも多い。

【課題への対応】

- ・教育総務課及び共済組合が実施している相談事業等について周知
- ・管理職に対し、風通しの良い職場づくりに心掛け、職員の心身の変化に留意し、問題が生じた場合は速やかに対応することなどを助言

4 市町村教育委員会への働きかけ

- ・県教育委員会の「働きやすい職場づくり」に向けた取組を紹介（5月8日通知）し、「働きやすい職場づくり」を進めるよう依頼
- ・適正な勤怠管理の実施、文書の適正な保管などのコンプライアンス意識の向上、職場の人間関係を円滑にするための職員間のコミュニケーションに関する資料を提供して活用を呼び掛け